

じゅ けん ばん ごう 受 検 番 号						

(記入してください。)

れい わ ねん ど
令和 8 年度
きゅうけんせつ き かい せ こうかんり だいに じけんてい
2 級 建設機械施工管理第二次検定
ひつ す もんだい せ こうかんり ほう
(必須問題) 施工管理法
たくいつしき し けんもんだい
択一式試験問題

つぎ ちゅう い よ はじ
次の注意をよく読んでから始めてください。

ちゅう い
〔注 意〕

- これは試験問題です。3 頁まであります。
- No. 1～No. 10 まで 10 問題があります。
必須問題ですから 10 問題すべてに解答してください。
- 試験問題の漢字のふりがなや送りがなについては、複数の使い方がある場合があります。ふりがなや送りがなは、問題の内容に影響がないものとします。
- 解答は、別の解答用紙に記入してください。
解答用紙には、必ず受検地、氏名、受検番号を記入し受検番号の数字をマーク(ぬりつぶし)してください。
- 解答の記入方法はマークシート方式です。

き にゅう れい
記入例

問題番号	解 答 番 号
No. 1	① ● ③ ④
No. 2	① ② ③ ●
No. 3	● ② ③ ④

① ② ③ ④のうちから、正解と思う番号を HB または B の黒鉛筆(シャープペンシルの場合)は、なるべくしんの太いもの)でマーク(ぬりつぶし)してください。
ただし、1つの問題に2つ以上のマーク(ぬりつぶし)がある場合は、正解となりません。

- 解答を訂正する場合は、消しゴムできれいに消してマーク(ぬりつぶし)し直してください。

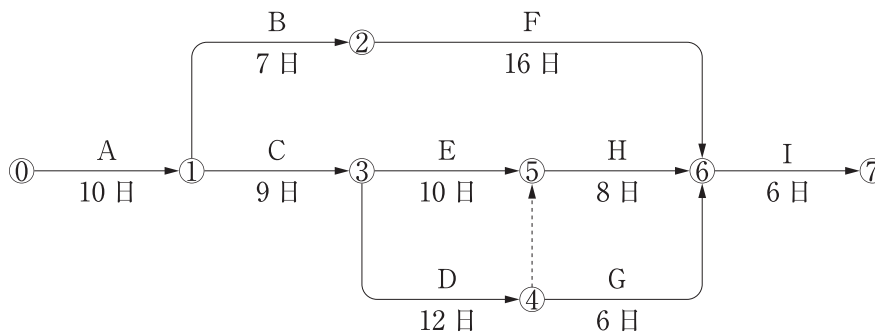
[No. 1] 工事の施工計画に関する記述として次のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 経験のない工法よりも、過去に経験した工法のみで検討する方が有利である。
- (2) 契約工期の範囲内で、さらに経済的な工期となる工程がないかを検討する。
- (3) 複数の代案を作り、施工性、安全性等の長所・短所を比較して検討する。
- (4) 発注者の要求する品質を確保するとともに、安全を最優先にしたものとする。

[No. 2] 施工計画を行ううえで必要となる建設機械の施工速度に関する記述として次のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 最大施工速度は、建設機械を好条件下で稼働したときに一般に期待できる1時間当たりの最大施工量をいう。
- (2) 正常施工速度は、建設機械の日常の維持管理等による損失時間を考慮して最大施工速度を補正したものをいう。
- (3) 平均施工速度は、災害事故や設計変更等を除く、建設機械の故障や悪天候による損失時間を考慮した施工速度をいう。
- (4) 最大施工速度は、建設機械を組み合わせたとときの作業能力のバランスをとるための検討に使われる。

[No. 3] 下図のネットワーク式工程表に示された工事のクリティカルパスとして次のうち、適切なものはどれか。ただし、図中のイベント間のA～Iは作業内容を、日数は作業日数を表す。



- (1) ①→②→③→④→⑤→⑥→⑦
- (2) ①→②→③→⑤→⑥→⑦
- (3) ①→③→④→⑥→⑦
- (4) ①→③→④→⑥→⑦

- [No. 4] 工程管理に用いる工程図表に関する記述として次のうち、適切でないものはどれか。
- (1) バーチャートによる計画工程や実施工程は、各作業の実施時期と所要日数を棒線で表す。
 - (2) 工程管理曲線による計画工程や実施工程は、工事全体の出来高の累計または比率の時間的変化を工程曲線として表す。
 - (3) バーチャートは、1つの作業が他の作業や全体の作業に及ぼす影響を確認するために用いる。
 - (4) 工程管理曲線を用いた工程管理では、実施工程曲線が上方および下方許容限界曲線の間に収まるように管理する。

- [No. 5] 土留め支保工における安全管理に関する記述として次のうち、適切でないものはどれか。
- (1) 各部材の構造上の安全のほか、土質に応じてボーリングやヒービングに対する安全も検討する。
 - (2) 施工は施工計画に沿って行い、所定の部材の取付けが完了しない場合は次の段階の掘削を行わない。
 - (3) 事前に要求性能墜落制止用器具(ハーネス型安全帯等)の使用のための親綱を設置することで切梁や腹起こしの上面を歩行できる。
 - (4) 土留板の埋込みで掘削面との間に隙間ができたときは、裏込めやくさび等により隙間のないように固定する。

- [No. 6] 建設工事での公衆災害防止対策に関する記述として次のうち、適切でないものはどれか。
- (1) 施工中に、管理者の不明な埋設物を発見した場合は、必要に応じて専門家の立会による調査を行って安全の確認をする。
 - (2) 老朽化等により埋戻し後に破損するおそれのある埋設物は、補強や更新等の措置を行ったうえで発注者に報告する。
 - (3) 架空線のある場所では、建設機械の接触のおそれのある位置にマーキング等を行ったうえで、架空線の保安措置を行う。
 - (4) 高圧電線がある場所では、通常の架空線対策のほかに、センサ等による危険性検知の技術の活用を努める。

[No. 7] 品質管理における品質特性と試験または測定方法の組合せとして次のうち、適切でないものはどれか。

- | (品質特性) | (試験または測定方法) |
|-----------------|---------------|
| (1) 盛土材料の最大乾燥密度 | 突固めによる土の締固め試験 |
| (2) 路盤材料の粒度 | ふるい分け試験 |
| (3) 地盤反力係数 | 平板載荷試験 |
| (4) 舗装の平坦性 | コア採取による測定 |

[No. 8] 品質管理に関する記述として次のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 品質管理では、施工の対象(材料、構造物等)の品質特性を各種試験や検査によって調べる。
- (2) 管理の対象とする品質特性は、その試験等の結果が判明するまでに長時間を要するものを確定する。
- (3) 品質標準とは、品質特性について所要の品質を確保するため、材料や施工のばらつきを考慮して定める目標値である。
- (4) 作業標準とは、品質標準を守るために必要な作業方法等をできるだけ具体的かつ詳細に定めたものである。

[No. 9] 建設工事における振動規制法に基づく規制に関する記述として次のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 著しい振動を発生する作業が、作業を開始したその日に終わる場合は、特定建設作業に該当しない。
- (2) 特定建設作業には、くい打ち機(もんけん、圧入式くい打ち機を除く)を使用する作業がある。
- (3) 振動は、建設機械から一定の距離を置いた地点での測定値が基準値を超えないようにしなければならない。
- (4) 指定地域で特定建設作業を行う場合は、市町村長への事前の届出が必要である。

[No. 10] 国土交通省の公共建設工事における「リサイクル原則化ルール」に基づき、原則として再生加熱アスファルト混合物(以下「再生混合物」という。)の利用を行う要件の項目として次のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 工事現場と再生混合物を製造する再資源化施設までの距離
- (2) 再生混合物を製造する再資源化施設から工事現場までの運搬時間
- (3) 再生混合物を製造する再資源化施設から工事現場までの運搬費用
- (4) 再生混合物の品質および工事目的物に要求される品質